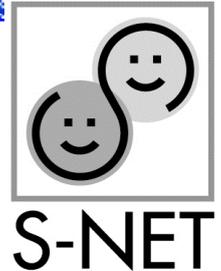


# KSK湘南ふくしネットワーク オンブズマン(新聞)

広報45号

編集責任者：NPO法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 藤本直也  
事務所：〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎市元町5-22 永井ビル3階  
電話・FAX：0467-85-6660 直通電話090-4937-4904 定価30円  
ホームページ：<http://www.npo-snet.com> eメール：[info@npo-snet.com](mailto:info@npo-snet.com)



## 相模原市「津久井やまゆり園」障害者殺傷事件をうけて

2016年7月26日(火)未明に発生した障害者支援施設「津久井やまゆり園」の事件により、亡くなられた利用者の方々のご冥福をお祈りし、負傷された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、深い悲しみや恐れを持たれているご家族に対して心からお見舞い申し上げます。

2016年9月14日に厚生労働省の相模原市の障害者支援施設における事件の検証及び再発防止策検討チームより中間とりまとめが公表されました。

私たちは、福祉のサービスを利用または必要とする人たちの権利を守り、その人が決めた、その人らしい生活を実現するために活動する団体として、この事件を受けて考えたことを以下に述べます。

### 記

私たちは、1997年5月に障害者・高齢者・児童一人ひとりが市民として地域社会でともに暮らせるよう、福祉サービスの利用者の人たち、まわりにいる人たち、地域のあらゆる人たちと協力し、ノーマライゼーション社会の実現に寄与をすることを目的に掲げ、立ち上がった団体です。

オンブズマン活動を開始するにあたり、オンブズマン宣言を作成し、それに賛同いただける施設と協働で、かつ施設間のネットワークを利用して、市民が主体的に福祉サービスの質のチェックと利用者の苦情や要望を受けとめ、代弁してきました。

### オンブズマン活動宣言

- 1) 私たちは、「権利」を「その人らしく生きるために欠かせないもの」ととらえ、これを守り、かつ実現するために活動します。
- 2) 私たちは、「権利」を奪うこと、特に、体罰、虐待、拘束などを絶対に許しません。
- 3) 私たちは、その人自身が決めたこと、考えたこと、訴えたことを尊重し、秘密を守り、最善の利益のために活動します。
- 4) 私たちは、障害者・高齢者・児童一人ひとりが市民として地域社会でもともに暮らせるよう、社会の変革に努めます。
- 5) 私たちは、利用者の人たち、まわりにいる人たち、地域のあらゆる人たちと協力し、ノーマライゼーション社会の実現をめざします。



このオンブズマン宣言にはあまり知られていませんが以下のような前文があります。

### 前文

私たちオンブズマンは、施設や地域において、福祉のサービスを利用または必要とする人たち（以下、「利用者の人たち」という）の権利を守り、その人が決めた、その人らしい生活を実現するために活動します。

私たちは、利用者の人たちの意見に耳を傾け、それらの人たちがかかえている問題に対し、一所懸命にとりくみ、アイデアを出し合い、持てるだけの力を集めて、利用者の人たちの権利を守り、その人らしい生活の実現のために役立ちたいと思います。そのためにはぜひ、まわりにいる人たちにも協力をさせていただくことが必要になります。

ただし私たちは、あくまでも利用者の人たちの権利を守ることを第一に考えています。このような立場をとりますから、活動のなかで、ときには利用者の人たちのまわりにいる人、たとえば、施設を経営する人や施設で働く人、あるいは役所の人たちなどと対立することがあるかもしれません。

しかし、そのようなときでも私たちは、何よりも利用者の人たちの権利を守り、かつ実現することを第一に考えたいと思っています。それは決してまわりの人たちと対立することを好んだり、批判することを目的としているではありません。

私たちは、いろいろな立場の人と正面から向き合って、真剣に話し合い、協力しあっていきたいと考えます。あるときは意見を異にしながらも、利用者の人たちの声に耳を傾け、一人ひとりの声を実現するために全力を注ぎます。

そして一人ひとりの声の実現をその人だけのものとするのではなく、この活動を通して、まず私たちの住む湘南、そして神奈川県の人々の幸福を実現したいと思っています。さらにこのような活動の輪をひろげ、福祉社会の構築に役立ちたいと願っています。

私たちが活動を開始して以来、19年が経ちました。活動当初に比べると制度も変わり、福祉サービスの質は少しは改善したかもしれませんが、しかし本質的なことは変わらず、施設から地域に移行しその人らしい生活を送ることができるようになった方はどれくらいいるのでしょうか。

国が「施設から地域移行」を掲げて10年余り経ちますが、地域移行が遅々として進んでいない状況があるのではないかと思います。

地域移行が進み、利用者の人たち一人ひとりが市民として地域社会でともに暮らせるような「ノーマライゼーション社会」が実現できていれば、容疑者は「障害者は人間としてではなく、動物として生活を過ごしている」などとは思わず、今回の事件には至らなかったかもしれません。

私たちは、これからも利用者の方々の声に耳を傾け、一人の利用者の側に立ち、その声を受け止め、実現を図っていきたく思います。また、利用者の人たちと私たちの関係だけではなく、施設、職員、家族そして市民の協働でノーマライゼーション社会の実現を構築していくべきだと考えます。

一人の利用者の声を中心に、関係者が知恵を出し合っていく、そしてその声を社会化していくなかで、市民や地域が変わっていく、そのような影響を与えつづけていくことが私たちの使命だと考えています。

理事長 藤本直也



2016年9月21日、知的障がい者でつくる団体「ピープルファーストジャパン」が、横浜市中区の大榎橋ホールで全国大会を開き、神奈川県立津久井やまゆり園で起きた、殺傷事件の犠牲者への追悼と、再発防止に向けての意見表明をされました。

以下は、神奈川新聞の9月22日の記事です。

# 相模原殺傷 追悼集会に障害者ら1000人

事件を繰り返さない社会を実現するには、どうすればよいのか。相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」の事件で命を奪われた19人を追悼するため、全国から約千人が参加した集会。登壇した当事者からは、専門家や行政の視点

で制度が策定されることへの異議が相次いだ。「まずは私たちの声を聞いてほしい」

(佐野克之、石川泰大)  
＝本記1面に

## 「私たちの声聞いて」

障害者を排除する優生思想や施設の立地場所などについて問題を提起する中山さん(右端)  
＝横浜市中区



### 当事者置き去りに異議

「障害者は生きていても意味がない」「障害者は不幸だ」  
逮捕された元施設職員の内容が、容赦なく浴びせられた容疑者の独善的な発言。だが、憤りの矛先は、障害者の気持ちに間違いを起こさせたのではないかと、  
「容疑者の措置入院に関する対応や、薬物使用が事件の背景のように論じられている」  
「幸せか、幸せじゃないかを(他人に)決められたくない」  
「容疑者の措置入院に関する対応や、薬物使用が事件の背景のように論じられている」  
「立ち止まってみてほしい。私たちがつながらずしての私たちのうわべの優しさは、犯人に間違いを起させたのではないか」  
障害者に優しいまなざしを向けるが、本当の気持ちを知ろうとしない人ばかり。事件についての報道や専門家の会

議をみても、知的障害者の声が反映されているとは思えない、と首をひねる。「これだけ大きな事件が起きているのに、私たちの意見が聞かれていない」  
参加者からも「思いをうまく言葉にできなくても、障害者はきちんと考えている」「障害者である前に一人の人間だ」という声上がる。さらに「進学先も暮らす場所も、自分の意見が通らないばかりか、そもそも意見を聞かれなかった」「入所施設が山奥にあると、外出もままならない」。悲痛な訴えが会場に響き、中山さんは言う。  
「いま私たちの暮らし方を国や行政、親が決めています。そこを根っこから変えないといけません。自分のことは自分で決めます。自分の人生を他の人に決められたくありません。私たちの声を、もっと社会に届けなければなりません」

## はみだしコラム

我が家は、駅から歩くと20分近くかかります。周りは畑で、ちょっとした丘の上の町内にあります。



畑の中の一軒家から始まったという町内会は、現在、約140所帯、高齢者のグループホーム1軒、障がい者のグループホーム1軒、障がい者の通所施設2棟となり、昨年50周年を迎えました。

ずっと砂利道だった我が家の前の道が舗装されたのは、2年前です。凸凹の砂利道に面した23軒が力を合わせて市に交渉して舗装を実現しました。市道に全く接していない4軒の枝分かれした道は市の予算で舗装するわけにはいかないという説明に、びっくりして会議を開き、せっかく一緒に運動してきたのに取り残すわけにはいかないという話になって、その道の分は皆でお金を出し合うということを決めて、全部舗装してもらいました。

町内会の初期の頃は、水道を引いたり、都市ガスを引いたり、電気を引いて街路灯を付けたりと、今は当たり前にあるインフラを、皆で力を合わせ、お金を出し合って整えてきたと聞いています。今年、我が家の給湯設備を新しくした時、「へえ、この辺りはプロパンガスと思って器具を用意してきました。都市ガスなんですね。御見それしました。」と業者に言われ、改めて町内会の力を感じたのでした。

先週の日曜日は、年に2回ある町内清掃日でした。以前は道に草がいっぱい生えていたので、皆で一斉におしゃべりしながら草取りをしたものですが、舗装されたので草は一本も生えず、“道に出て”という必要はなくなったのですが、それぞれに庭に出て、向こう三軒両隣、垣根越しに声を掛け合いました。

我が家も含め高齢化して、独居のお家も増え、これからはますますお互いに見守り合って、助け合っていかなければと思う今日この頃です。



(江崎)

## 賛助会員入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ◇賛助会員会費
  - ・個人 年額 一〇 1,000円 (一〇以上)
  - ・法人 年額 一〇 5,000円 (一〇以上)
- ◇ご入会の方法：郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください
  - 郵便振替口座番号：00210-9-75496
  - 口座名義人：NPO法人 Sネットワークオンブズマン

